実践ノート

きゅうちゃんの歴史（Ⅲ）
―「出席確認」への活用―

石田ゆき [1)]

ISHIDA Yuki

キーワード：看図アプローチ・きゅうちゃん・アイスブレイク・出席確認

Ⅰ．はじめに

石田（2022）ではきゅうちゃん誕生秘話を紹介した。石田（2023）ではきゅうちゃんの「ちょこっと使い」について説明した。きゅうちゃんは，協同の雰囲気づくり（アイスブレイク）・ビジュアルテキストの読み解きのトレーニング・授業のふりかえり等，様々な場面で活躍してきた。そしてこの度，きゅうちゃんを活用した新しいアイスブレイクの方法を考えた。それは，アイスブレイク前に行うアイスブレイクである。本稿では「出席確認」ワークとして行った実践を紹介していく。

Ⅱ．きゅうちゃん表現の新しいかたち

出席確認用きゅうちゃんイラストの制作は2023 年 1 月から始まった。実践にあたりこれまで制作してきた約 600 種類の「きゅうちゃんリスト」から転用することも考えた。しかし，筆者自身が「いずれきゅうちゃんをカラーイラストで描きたい」という願いをもっていたため，これを機に新たに制作する運びとなった。「曖昧・空所・対立・欠落等を含むように設計した絵図は創造性を発現させる（鹿内編著 2014，p.107）」。このような，ビジュアルテキストに必要な条件 を意識しながら制作を進めた。2023 年度前期「教育学」授業で使用したイラストを以下に載せておく。この授業は前期８コマ配当で実施されるため，イラストは 8 枚制作した。

イラスト 1

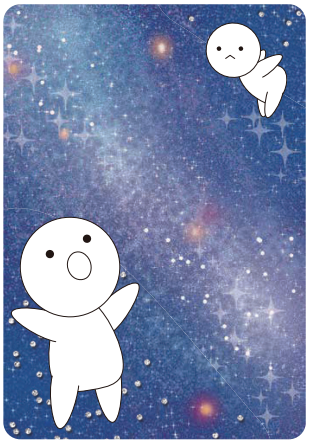


イラスト 2

1) 日本医療大学

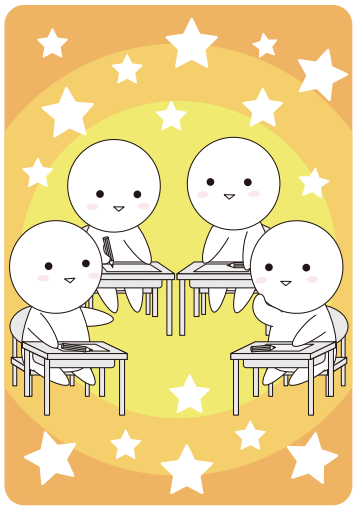


イラスト３

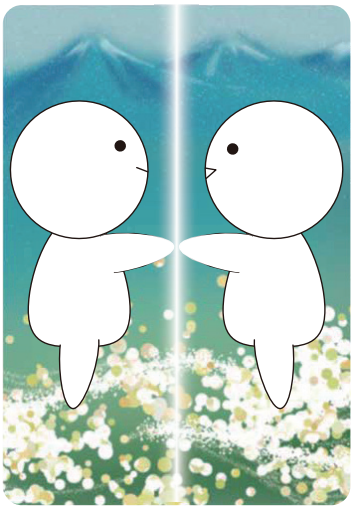


イラスト６

イラスト４

イラスト７

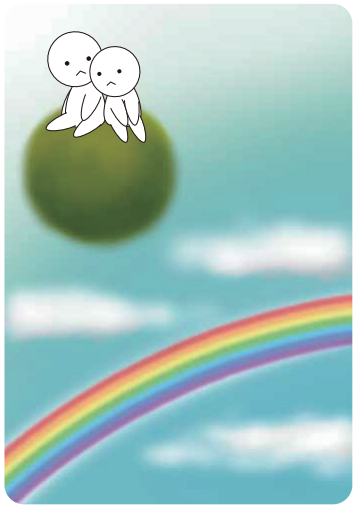


イラスト５

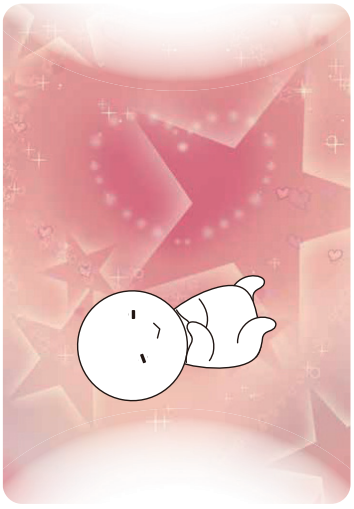


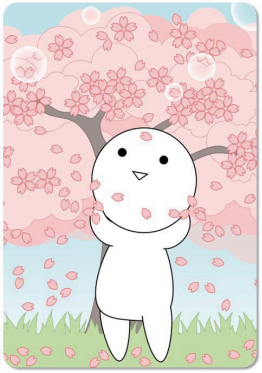
イラスト８

Ⅲ．出席確認用きゅうちゃん活用の実際

初めての実践から本年（2024 年）で 2 年目となる。各年・各科目で，使用するイラストの種類や指示の仕方，記入用紙のデザイン変更・改良を行っている最中であり，最善の実施方法を模索中である。そこで本稿では，初めて実践した A 大学 2023 年度前期の選択科目「教育学」での実践例を紹介していく。なお,学年は 1 年生（121 名）であり，リハビリテーションが専門の学生たちである。記述例や感想は，論文等への掲載の承諾を得ているもののみ引用していく。

Ⅲ－1　実施手順・教示・ワークシート

実施手順と教示・ワークシートを以下に示す。なお，使用するスライドは白地背景にイラストのみというシンプルなものである。スライドは毎回同じスタイルで作成した（例えばスライド 1）。



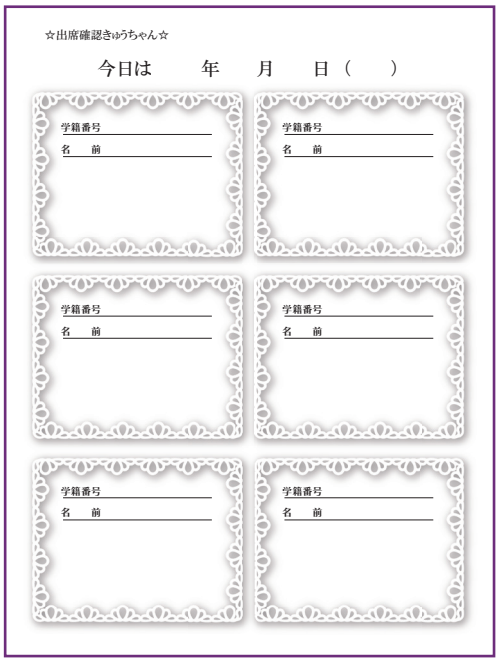
スライド 1

実施手順

①１グループが３～５人になっているか確認する。（４人を基準とする）
②１グループに１枚のワークシートを配付する。
③その日のイラストを呈示し，教示を口頭で伝える。
④学生は出席確認用紙に学籍番号・名前・タイトルを記入する。
⑤ノートにタイトルを転記し，説明を記述する。
⑥出席確認用紙を回収する。

教示・ワークシート

このイラストに，自分や，見た人・聞いた人がポジティブな気持ちになれるようなタイトルをつけてください。出席確認用紙（ワークシート１）にはタイトルのみ書いてください。そして，どうしてそのようなタイトルにしたのか，理由をノートに書いてください。その内容はあとでレポートにも書いてもらいます。今考えたタイトルも忘れないようにノートに転記してください。


☆出席確認きゅうちゃん☆
今日は　　年　　月　　日（　　）
学籍番号
名　前

ワークシート 1

（A4 版で作成。この他に 4 種類の枠のデザイン違いがあるが掲載は省略。）

手順について補足していく。１グループはあらかじめ 4 人を基準として編成しておく。その 1 グループに 1 枚ずつ，ワークシート 1 を配付する。グループのメンバー全員が 1 枚のワークシートにタイトルを書き込むシステムである。こうすることで，その日そのグループに誰がいたのか教師側が把握しやすいと考えた。

このきゅうちゃんの出席確認ワークを行う際には看図アプローチについての理論的な説明は一切行わなかった。授業開始直後に「ちょっと変わった出席確認の仕方をしていくよ，考えてみてね。」

という雰囲気で始めた。１回目のときは，教示をしたところで学生たちからざわめきが起こった。思考中，何人かペンが進みにくい様子もみられたので，「第一印象で感じたことや直感的に感じたことを大事にして。」といった声かけを適宜行った。

ここでさっそく失敗談を述べさせてもらいたい。まず，想定よりも記入に時間がかかってしまっていた。学習環境を整えるための一連の活動として所要時間に無駄があったことは否めない。初回はとくに，グループの調整から回収まで 10 分以上かかっていた。2023 年度は大学側の方針で座席指定が行われていなかった。そのため仲良し同士で固まっていたり，前方の座席がごっそり空いていたりという様子が見られ，グループ編成するだけで一苦労であった。このような状態が毎回生じたので，大学側に相談し４回目から全席指定（学籍番号順）で授業を行うこととなった。４回目以降は教室前方から学生が詰めて着席している状態になったため，グループ編成がラクになり，手順をスムーズに進めることができるようになった。このように何とか学習環境を整え，所要時間を最小限にし，出席確認のワークを行っていった。

Ⅲ－２　各イラストの記述例と考察

各授業の後に毎回，「タイトル」と「そのタイトルにした理由」，「授業の感想等」を課題としてレポートを提出してもらう。レポートはメールもしくは Teams のチャットから，翌日までに提出してもらう。

以下に，各回の授業でそれぞれどのような記述がなされたのか紹介していく。イラスト番号は授業回と対応している。明らかな誤字脱字は修正してある。さらに，性別に関する個人情報に配慮し，一人称は「私」に統一して掲載する。

イラスト１の記述例

●学生１のタイトルとそのタイトルにした理由

【マイペース】

桜がゆっくり散っている背景と，頭の後ろに手を組んでいるきゅうちゃんを見てなんだか「自分のペースでゆっくりでもいいんだよ。」と，言われてるようなイメージが一番最初に湧いて来たのでこの一言にしました。

●学生２のタイトルとそのタイトルにした理由

【新学期，桜のように咲きほこれ！】

標語のように意図して書いたとともに，自分への応援メッセージが欲しいと考えた為この言葉を作った。春の陽気の中満開の桜の木の下で空を見上げるきゅうちゃんのイラストより，春・桜というモチーフを使って新学期を連想し，桜が咲くように明るく充実した学校生活を送りたいと考えた。

この他，次のような感想がみられた。上掲の学生１・２以外の感想を掲載する。

感想例Ａ

今日は実際に自分の意識や考えを持ちながら授業を受けたので，授業を聞くと言うより，授業に参加した。こんな感覚でした。

感想例Ｂ

他の授業は，授業に入り混むまでがすごく面倒くさいため，凄く苦痛に感じます。ですが，グループワークが多めだと，楽しく授業に入り込みグループワークを終えた良い気分のまま，何気なく授業に入ることができるので，内容がスルスルっと頭に入ってくるような感じがしました。

感想例Ｃ

日本の教育には「見る」という事が足りておらず，問題点だと言うことがわかりました。ビジュアルリテラシーは，今回のきゅうちゃんのような絵から，自分で解釈をして意味を作るということで，私はやった事がなかったので，問題は簡単でも少し苦戦しました。今後の教育学の授業でどんどん回数を重ねるにつれて，もっと具体的に，しっかりと自分の解釈をして，言葉にできるように頑張りたいと思いました。

感想では，「教育学という授業のイメージが変わったこと」「協同学習スタイルの授業の良さや楽しさ」「見ることの大切さ」等にふれるものが多かった。また，「セラピストになる自分たちが教育学を学ぶ意味」について，次のような感想があった。

感想例Ｄ

現代の教育には『見ること』が欠けていることを聞いて，教育学を通して学ぶことが楽しみになった。セラピストの従兄弟が，よく現場ではリハビリの先生と呼ばれていることを教えてくれた。将来教育に携わるかどうかではなく，患者一人一人と向き合い理解しあうためにも，教育学での学びを大切にしていきたい。

筆者はこの授業を暗記科目にしていない。だからということもあるかもしれないが，「教育学を学ぶ」ではなく「教育学という授業の中で人として学ぶべきことを学ぶ」大切さが伝わったことに教師として喜びを覚えた。授業を「見ること」から始めること，つまり「出席確認」の時点から「見ること」を始める意味は大いにあるのではないだろうか。

イラスト２の記述例

●学生３のタイトルとそのタイトルにした理由

【解放感】

手を広げ，口を大きく開けているきゅうちゃんを見て「解放感」という言葉が思い浮かびました。まるでテストがすべて終わった後の学生のような安堵感を感じます。また，背景に描かれているのは宇宙です。宇宙は私たちが想像できないほどの広さを持っており，その広い中にポツンといるきゅうちゃんからも解放感を感じました。今現在，パソコンでこの文を打っているのですが，「かいほうかん」と打つと「解放感」と「開放感」の２つが出てきました。インターネットで意味を調べてみると，「解放感」は「解放された感じ，束縛を解いて自由にされた感じ」，「開放感」は「戸などが開け放たれたようなオープンなイメージ」と出てきました。今回のきゅうちゃんのイメージに合う「かいほうかん」は自由な感じが伝わってくるので「解放感」にしました。

●学生４のタイトルとそのタイトルにした理由

【可能性は無限大】

なぜこの言葉を連想したかというと，宇宙の中にきゅうちゃんが居て，初見でまず宇宙は無限に広がっているイメージを思い浮かべました。そこから可能性という言葉も何故かポッと頭の底から浮き出てきて，左下のきゅうちゃんが口を大きく広げていて何かを大きく叫んでいるようにも感じ，可能性は無限大をふと連想しました。

私たちはセラピストを目指す学生の卵であり，たくさんのことにチャレンジして学習して吸収していく段階にあります。教育学もそうです。周りの人と意見を交換し，それぞれの思考の違いをお互い影響しあい，あらゆる視点で物事を学んでいくことになると思います。これから様々な困難に見舞われてしまっ

たり，たくさんの苦労があるかもしれません。でも目標とするセラピストになるためのこの４年間は無限の可能性に溢れ，やりたいことを思う存分にやれるチャンスでもあると思います。例えばセラピスト以外の国家資格を絡めて取ってみるだったり，授業中になぜ「見ること」を日本の教育に取り入れられてないのかという取り入れることの難しさを習いましたが，その要因となっている研究者が少ない，ビジュアルテキストだったりを自分が変えていけるかも知れません。なんでも自分が頑張ろうとして努力をすれば必ず，可能性は無限大だと私は思っているからです。

きゅうちゃんを見てこの言葉を連想して，可能性について深く考えさせられました。

１回目授業（イラスト１）では多くの学生が「理由」の部分を 100 ～ 200 字前後で記述していた。レポート課題を出す際に筆者が「レポート全体で 400 字くらいは目標にして書きましょう」と伝えていたからである。しかし，２回目授業（イラスト２）から，だんだんと文章量が増えてきた。また，次のような感想がみられた。上掲の学生３・４以外の感想を掲載する。

感想例Ｅ

前回とは違って（筆者注；きゅうちゃんが）１人じゃなくて２人いることによって感情やなにを伝えたいのかが分かりやすくなり，コメントもしやすくなった気もした。読み取るのは２人の方が読み取りやすいし情報が多いから今回のような感じの方がちゃんとしっかりコメントできるような気がしました。

感想例Ｆ

今回のきゅうちゃんの宇宙の背景を見て，浮いているように見えると思う事は，きゅうちゃんの表情，体の動かし方だけじゃなく色が大きく関わっていると思います。これは芸術が関わっていて，表現者が伝えたい事と鑑賞者が思う事は違ってくると思います。なので，このきゅうちゃん課題は芸術が関わっていると思います。先生の芸術は沢山の考え方が生まれるので凄いと思います。先生の芸術を私はもっと感じ取れるようになっていけるように頑張ります。

感想例Ｅでは，人物（きゅうちゃん）が２人になったことでコミュニケーションしている状況を想起しやすかったことがうかがえる。また，感想例Ｆでは，アートの感覚について述べてくれている。２回目授業からは前回の記述例をいくつかピックアップして紹介し，全体シェアしてから出席確認のワークに入っている。そのため，多様な読み解きがあることに驚く学生も多く，この学生の場合は「芸術が関わっているのでは？」という発想にまで至っている。このような発想も「多様な読み解き」のひとつと言えるだろう。

イラスト３の記述例

●学生５のタイトルとそのタイトルにした理由

【あ！ひらめいた！】

４人のきゅうちゃんがグループワークをしているように見えたからです。たくさんの星が描かれているのは４人のきゅうちゃんから出た考えの数であり，もう星が描けない様子からたくさんの意見が出たのだなと感じました。後ろの背景の部分に注目してみると黄色からオレンジ色に変わっているなと思い，最初に出た意見よりだんだん深くなっていったのかなと思いました。１人のきゅうちゃんが何か

書いている様子から４人でたくさん考えた中で１つに絞りこめたんだなと感じ，その他の３人はほっとしているように見えました。私達も教育学でたくさんの人とグループワークをしているが，自分が気づけなかった部分もたくさんあり，多くの意見を聞くことでまた新しい考えを生み出すことで日々成長しているなと感じています。４人のきゅうちゃんにも新しい知識が増えていればいいなと思いました。

（中略）次の授業から話したことがない人とグループワークすることになったとしても今まで通り自分が考えた意見を伝えられるように頑張ります。

●学生６のタイトルとそのタイトルにした理由

【今日，どこ晴れにする？】

きっと左上から書記，右が仲介役，左下と右下が主に意見を出しているのでしょう。毎日晴れの日はきっとこの子達が決めているのでしょう。

では雨の日はどうでしょうか？今日もなかなか前の２人は話し合いが進行しません。実は，２人は時間にルーズなのです。次に太陽を照らす地域を決めるまでのその期間，それがきっと雨の日，曇りの日なのです。もっとテキパキ話し合いを進めて欲しいものです。私はそう感じました。初め見た時は世界征服か何かの会議かと考えましたが，表情から察するにどう見ても悪いことはしなさそうな表情をしてるのでそういう考えに至りました。

感想例も２つ載せておく。上掲の学生５・６以外の感想である。

感想例Ｇ

４人で向き合って話している点と背景が明るかったことで空気がよくて，いい雰囲気で話しているということを感じ取れたというのと，みんなが笑っていることに目がいき表情からもなにをしているのかを読み取れることが出来ました。初回は１人，前回は２人，今回は４人になっていき，人が増えるにつれ状況が理解しやすいため，想像しやすかった。

感想例Ｈ

４人の中心辺りが黄色く段々とその周りが赤くなっていくところから太陽を想像し，星がたくさんあったため宇宙を想像しました。宇宙は無限に続いています。そして４人のきゅうちゃんは机に向かい知恵を出し合っているあたりから，無限の知恵を出し合ってるように思いこの言葉にしました。そしてこの４人のきゅうちゃんは，授業中のグループ活動にも照らし合わせることができ，私たちの意見はもっと無限にあり，話し合うことができると感じました。

イラスト２の感想でもあったように，人物（きゅうちゃん）の人数が複数になると，コミュニケーションを意識した記述がしやすいようである。また，実際の自分たちの状況と重ね合わせて，授業の中で積極的にコミュニケーションを取り入れることの大切さにも気づいてくれている。

イラスト４の記述例

●学生７のタイトルとそのタイトルにした理由

【きゅうちゃんみーつけた！！ー誰かが見つけてくれるー】

最初に写真を見たとき，きゅうちゃんは未来に不安を抱えているように見えました。すぐに後ろを振り返りこれで正しかったのかと進む道を迷っているように感じました。そして，周りの木が私には前に進もうとしているきゅうちゃんに対して，「お前には無理だ」「どうせ失敗する」と否定的な言葉を投げつけてくる人たちの影に見えました。そしてそれはまるで，本物の木のようにどんどん大きくなってきゅうちゃんに襲いかかっているようでした。しかし，写真では，そこに光が差し込んだのです。そしてこの光が私には目に見えました。(白丸が瞳でその周りの薄く白い部分が目の周りの部分)まるで，きゅうちゃんが大きな木，つまり否定的な言葉ですっぽり隠れてしまっているところに，暖かな光で「みーつけた」と手を差し伸べてくれる神様のような存在に思えました。私たちは周りの意見や言葉に流されることが多いと思います。毎日人の顔色を伺ったり，言いたい言葉を素直に言えず，押し殺したりして過ごしていると思います。今回のきゅうちゃんは私たちひとりひとりと重なる部分があると思いました。

「ばかなあんたにセラピストは無理だ」，「人見知りのお前にコミュニケーションが大切なリハビリの仕事は合わない」など生きてさえいれば色々な否定的な言葉を言われてきたと思います。そんな言葉に隠れている私たちの存在を誰かが見つけてくれると信じて後ろを振り返りながらも前に進むしかないと思うのです。つまり，このきゅうちゃんは私たち自身なのです。そして，きゅうちゃんとおなじように迷いながらも，時には後ろを振り返り立ち止まったとしても，誰かが見つけてくれると信じていれば選んだ道は間違ってなかったと胸を張って言える日が来るはずだと思うのです。

勉強が難しくて悩む毎日だけど，わたしは周りのみんなや先生たちに助けを求めながらきゅうちゃんのように必死に頑張っていこうと思えました。

●学生８のタイトルとそのタイトルにした理由

【出た答え】

差し込む光を見るきゅうちゃんが，探していた答えを導き出したように見えたからです。最初にそう考えてしまうと，森の見方も変わってきました。ただ，沢山の木に囲まれた森の中をきゅうちゃんが歩いているのではなく，木の一本一本がきゅうちゃんの選択肢であり，迷いの数であるという風に捉えられました。また，雪景色はきゅうちゃんがそれだけ答えを必死に見つけ出そうとしていて，やっと見つかった答えが暖かく眩しい光としてきゅうちゃんを照らしてきたのではないかと考えられました。

学生８は感想として次のようなことを書いていた。

感想例Ⅰ（学生８の感想）

私は，普段のイラストの課題には見たままの言葉を当てはめてしまうことが多いと思います。しかし，今回のイラストはそのままの情景を捉えるのではなく，自分の想像力をはたらかせて，その中にどんな意味が込められているのかというのを考えられたと思います。最初の方は，イラストに言葉を加えるということが，単純そうに見えてやってみると難しいということを実感していました。ですが，やっと慣れてきて，考え方の工夫もつかんできたのかなと思いました。このレポートを書いている時に，私の中にある疑問が生まれま

した。イラストに言葉を当てはめたり，何かを想像して考えを膨らませていったり，これらは今でこそ難しいと思いますが，幼かった頃は自然にできていて，得意な方だったとさえ思います。しかし，大人に近づくにつれ，それが自然にできなくなってきたなと自分自身を見ていてそう感じます。調べてみると，沢山の意見が出てきましたが，私が 1 番しっくりきた答えは，「子供は物事の仕組みを知らないから」ということでした。この答えは，物事の仕組みというふうにひとまとめにしていますが，つまりは子供には知識がないからです。知識がない分想像力を膨らませ，一つのお題に対して沢山の答えの選択肢を導き出すことができます。しかし，大人になるにつれて，学校や社会に出て物事の原理を知っていきます。もちろんこれは，大人になるために，社会に出るために必要なことなのですが，私はなんだか勿体無い気がしてなりません。だからこそ，今私たちが受けている教育学のような想像力を働かせる機会を設ける授業が全国的に広まれば，何事においてもより深い考え方をできる人が増えてくるのではないかなと思いました。

学生８は，大学生くらいになると子どものように素直に感じたり表現したりという機会が少なくなっていることを伝えてくれている。「想像力を働かせる」ことが「深い考え方をできる人」を増やすので「教育学のような授業が全国的に広まれば良い」，と。これは逆に言えば，「想像力を働かせるような教育が全国的に行われておらず，深い考え方をできる人が減っている」ということではないか。文部科学省が掲げる資質・能力の柱のひとつである「思考力・判断力・表現力」向上を実現するためにも，各科目の中で少しでも「想像力を働かせる機会」を設けていくことが必要なのではないだろうか。この出席確認のワークは，学習者が慣れれば数分で実施することができる。「きゅうちゃんと朝一番あたまの体操！」とか，金曜日に「今週はどんな 1 週間だった？（来週はどんな週にしたい？）」などとして導入することもできるかもしれない。

イラスト５の記述例

●学生９のタイトルとそのタイトルにした理由

【一歩踏み出す勇気】

私はこの絵を見て，きゅうちゃん達は緑の丸いところから飛び立とうとしているように見えた。しかし，虹に着地が出来れば良いけれど，虹に着地出来なければ，地面に落ちてしまうという状態だ。この状態は今の私の状態に似ている。今，勉強をいくらしても足りていないと感じることが多く，定期考査やその他のテストで単位を取れるか，そして国家試験に通用する程の学力がついているのか不安になる。でも，とりあえずやってみないと落ちるか合格するかもわからない。何もやらずに後悔するより，一歩踏み出し，何かやって，全力を尽くして，これでダメなら仕方がないというくらい後悔の無い努力をすることが大切だと思う。失敗するか，成功するかは，やってみないと分からない。だから，失敗を恐れずに一歩踏み出したいとこのきゅうちゃんを見て思った。私は失敗を恐れることが多いと自分でも感じるし，人からも「失敗を恐れないで」と言われる。だから，この自分を少しずつ克服していきたい。

●学生 10 のタイトルとそのタイトルにした理由

【どうしたら平和になるかなぁ？】

この言葉にした理由は，二人のきゅうちゃんは寄り添っているけど，どこか浮かない顔をしているのが気になりました。きゅうちゃんは天使のような存在だと考えました。そこで，どうして浮かない顔をしているのかなと疑問に思いました。私が考えたのはきゅうちゃんは世界を空から見ていて争いや喧嘩などを

無くしていきたいと思っています。一つの対策として虹をかけましたが，上手くいかず悩んでいます。

みんなが幸せで争いがなくなれば世界は平和になると考えるきゅうちゃん達は次は何をしたらいいか二人で考えているところだと思いました。

二人では上手くいかないことでも，三人，四人と多くの人と交流を深めれば良い対策が思いつくかもしれない。私達も勉強などで行き詰まった時，近くにいる友達や仲間と交流をすることで解決することがきっとあるはずです。そうして立派なセラピストになれていくと信じています。

イラスト５では，虹＝良いことがありそうなのに，きゅうちゃんたちが「どこか浮かない顔」をしているということに課題を見出している記述が多くみられた。ポジティブさとネガティブさが混在しているイラストと感じられたようである。上掲の記述例（学生 9･10）だけでも「着地か落下か」「合格か不合格か」「前進か後悔か」「成功か失敗か」「平和か争いか」「行き詰まりか解決か」という要素が取り出せる。これらの相反する要素を，学生たちはそれぞれの思考の中で整理し，解決策を見出している。また次のような感想もみられた。学生９・10 以外の学生の感想である。

感想例 J

辛い時は泣いたり，死にたくなったりするかもしれない。けど，泣いた分それが雨になって，いつか虹になる。つまり，いつか絶対に幸せが来るということ。きゅうちゃんたちが乗ってるのはマリモで水があれば育つということ！

制作者として，筆者はこのイラストを「少し暗いイメージになっているだろうか？暗い空気にならないだろうか？」という懸念をもちながら呈示した。しかしほとんどの学生たちは，ネガティブさを受け止めながらも，それをどうしたらポジティブに変えていけるか考え表現してくれていた。

イラスト６の記述例

●学生 11 のタイトルとそのタイトルにした理由

【○年後のきゅうちゃん】

今回の写真を見て，最初は，誰かと再会してるのかなと見えた。緑色の自然や富士山の背景を見て，未来にいるのかなと感じたので，このタイトルにしてみた。

右にいるきゅうちゃんは，現在のきゅうちゃん。左にいるのは，未来のきゅうちゃん。現在のきゅうちゃんの表情を見て，未来の自分に会えて，嬉しいのかなと読み取った。現在のきゅうちゃんは，小さい頃から毎日，未来の自分宛にお手紙を書いていた。その中で，１つのお手紙を紹介します。

「未来のきゅうちゃんへ　私は，医療従事者になるという将来の夢があります。今のあなたは，その目標を叶えられていますか？今の私は，国家試験に受かるという目標があって，毎日不安になりながらも，勉強をしています。もし，受かっていたら，今のあなたは医療従事者として，患者さんのサポートをできていますか？私は，その夢を叶えられている，未来のきゅうちゃんに，いつか会えるのを楽しみにしています。」

という手紙があった。その手紙が遂に叶った！きゅうちゃんは，国家試験に合格し，医療従事者となっていた。あの時不安になりながら，自分宛に手紙を書いたきゅうちゃんが，やっと目標が叶い，未来の自分に会うことができて，すごくニコニコしているきゅうちゃんに見えたと感じた。

今のきゅうちゃんが未来の自分宛にお手紙を書いているように，現在について書くこと

で，将来への希望，自分への期待などを知ることができる。また，受け取った際に，当時を見つめ直す気持ち，今後のことを考える材料にもなると思い，大切だと思った。

●学生 12 のタイトルとそのタイトルにした理由

【大丈夫。大丈夫だよ】

きゅうちゃんはいつもみんなの頼り者。皆んなに元気や勇気といったポジティブな感情を振りまきます。そんなどんな時も元気なきゅうちゃんですが，どうしてそんなにポジティブでいられるのか。それはきゅうちゃんの心の中にあるのです。心の中にはきゅうちゃんよりもポジティブなきゅうちゃんがいて，困った時や失敗してしまった時，悲しいときには，心の中の自分に委ねます。

「ねえぼく，どうしよう」「悲しい」「辛い」「これで良かったの？」

そんな時にはいつも心の中の自分が「大丈夫だよ，大丈夫」と声をかけてくれるのです。

ポジティブなきゅうちゃんの中にはもっとポジティブなきゅうちゃんがいる。自分のことは自分が１番知っているからこそ，自分に委ねる。そんなような事を想像しました。

「大丈夫。大丈夫だよ」を書いた学生 12 は，レポートで次のような感想を述べていた。

感想例Ｋ（学生 12 の感想）

最初の方は，自由度が高過ぎてかえって難しいと感じていました。ですが，それなりにしか授業していないにもかかわらず，沢山の物語や，想像が頭に浮かぶようになりました。今では，きゅうちゃんのイラストを見ると，一つの物語が浮かぶのではなく，大量の物語が一瞬で浮かんだなかから選ぶのが少し時間がかかるといった状況に陥っています。

この他に「文章力や発想力が少し付いてきたと思いました。簡単すぎず，難しすぎずという絶妙なラインの課題で鍛えられているおかげです。これからも頑張っていきたいです。」との感想を述べる学生もいた。授業の冒頭で毎回行われるこの出席確認ワークによって，想像力や発想力だけでなく文章力の向上を自覚している。文章量はクラス全体としても回を追うごとに増えてきて，表現もより多様になってきた。

しかしひとつ，イラスト６については難があった。それは，何人かがいくつかの長編アニメーション作品のシーンと重ねて「似ている」と書いていたことである。イラストをスライドで呈示した際にもそのような発言が聞こえてきた。このような反応は，何かの作品に似せて制作したつもりのない筆者にとって大変残念なものであった。そのため，このイラストは 2023 年度後期以降使用しないこととした。

イラスト７の記述例

●学生 13 のタイトルとそのタイトルにした理由

【明るさに１等賞】

光り輝く背景の中，きゅうちゃんが持っているお花の冠が，アテネオリンピックの表彰式に渡された冠に見えたからです。お花を持ってるきゅうちゃん達は笑顔で，背景も光り輝いていることから，良い出来事があったのだと考えました。そして，この絵は何かを表彰しているのだなと思いつきました。

身近な人で表彰したい人と言えば，グループで話し合いを始めるきっかけをすぐに作れる，明るくフレンドリーな人です。どんな意見でも出すことが出来る雰囲気を作れる明るい人達こそ，表彰されるべきだと思います。いつも何気なく会話を始められる人がいるおかげで，より意見を深くまで考えられたり，言い難いことも言えるようになるので，感謝の気持ちを込めて表彰したいと考えました。

●学生 14 のタイトルとそのタイトルにした理由
【プレゼント】
　これは，私からきゅうちゃんへでもあり，きゅうちゃんから私への言葉でもあると思いました。私は，教育学の課題でいつもきゅうちゃんの力を借りています。きゅうちゃんがいろんな姿になったり，分裂したりしてイラストを作り上げてくれているので，私はその日の課題に取り掛かることができます。しかし，きゅうちゃんはおおまかな雰囲気は作れますが，実際に何をしているのか，何を言っているかなどは決められてないので，そのセリフや設定を入れてあげるのが私です。きゅうちゃんは私に課題をくれて，私はきゅうちゃんに命を吹き込みます。なので，お互いにいつもありがとうという気持ちを込めてお花を贈り合い，その贈り合った花をまとめてリースにしたのかなと思いました。

　イラスト７はそれ自体が明るい雰囲気の表現となっており，感謝・平和・プレゼント・協力・一緒・～の大切さ・幸せ・お祝い事，に関するキーワードが多く記述されていた。授業実施日に近いこともあって「母の日」「父の日」も多かった。「リース」の意味や「花言葉」について調べ学習をしてきた学生もいた。イラスト７の実践は学生も読む側も，とくに明るい気持ちになれるものであった。
　「プレゼント」を書いた学生 14 は感想で「最初はなんとも思っていなかったきゅうちゃんにも愛着が湧きはじめてきて，今では授業中や，課題に出てくるきゅうちゃんを見て，思わず微笑んでしまいます。こんな可愛いきゅうちゃんとも，もう少しでお別れだと思うととても寂しいです。最後の課題はとびきり可愛いきゅうちゃんが見たいなと思ってます。」と語っている。はじめは「なんとも思っていなかった」きゅうちゃんと「プレゼント」を贈り合うまでになった。イラスト１の感想（感想例 B）にあった「何気なく授業に入ることができるので，内容がスルスルっと頭に入ってくるような感じ」のように，きゅうちゃんも学生たちの“わ”の中に何気なく入り，スルスルっと学生たちの心をほぐしているのかもしれない。
　その他，上掲以外の学生の感想をひとつ載せておく。

感想例 L

　今までは父の日なんて考えたことがなくて，もちろんプレゼントも渡したことがありませんでした。しかし，自分が大人に近づいていくにつれて社会の厳しさや大変さを知り，感謝の気持ちをもつようになりました。なので，今年の父の日には日頃の感謝を込めてなにかプレゼントをしたいなと思っています。このことを子供の頃から考えれている二人のきゅうちゃんは素晴らしいと思いました。

イラスト８の記述例

●学生 15 のタイトルとそのタイトルにした理由
【ありがとう，きゅうちゃん　ありがとう，みんな】
　教育学ももう終わり。きゅうちゃんはみんなのポジティブな想像力を高める為に，沢山の場所へ行き沢山の感情を伝えてくれました。授業を受けてくれた生徒に沢山のポジティブな言葉を貰い大満足のきゅうちゃん「もう僕がいなくてもみんなは大丈夫だね」「次はみんながきゅうちゃんになって沢山の人にポジティブを与えられるような人生を送ってね」「幸せいっぱいだよ。おやすみ」という感情が沢山伝わってきました。
　そのように感じた理由は，まずきゅうちゃんの表情です。今まで見てきたきゅうちゃんのなかで一番幸せで，安心しているように感じたからです。一番最初の課題で出た桜の木の前に立つ大きめに見えるきゅうちゃんは，「僕に任せて！」というたくましい姿を想像で

きました。が，今ではみんなが成長し，知らぬ間にポジティブな想像力を高められたみんなに安心しているのでしょう。背景にはハートや星，凄くキラキラしていて，沢山の人が考えたポジティブな気持ちで今ではいっぱいいっぱいになったのでしょう。そのようなところから，きゅうちゃんのそのような気持ちを幻想することができました。

●学生 16 のタイトルとそのタイトルにした理由

【明日はどんな日になるだろう！】

私はこの絵を見て，きゅうちゃんは今，きっと楽しい夢を見ているのだと思った。絵の背景から明るい印象を受けたのと，きゅうちゃんの口角が上がっていることから，そう思った。私は，テスト前で追い込まれている時や，とても嫌なことがあった日は，あまり良い夢を見ない。寝ても起きても気分が重い。でも，それは，１日の中で良いことも悪いこともたくさんあった中で悪かったことばかりを思い出しながら眠りについているからだと思う。良かったことも悪かったことも事実として変わることはない。そうならば，悪かったことは「反省して次に活かそう」と前向きに考えれば良いのだ。そして，１日の終わりくらいは，良かったことにスポットを当てて眠りにつけるようになりたい。その考え方は，寝る時だけでなく，普段の生活でもそうだ。悪いことばかり引きずっていたって良いことは巡ってこないと思う。私はちょっとした悪いことに対しても深く考え込み，落ち込んでしまう。これからは落ち込んでも，次はどうすれば良いかを自分の納得するまで考えて，行動に移せるようになりたい。そうすることで，毎日ポジティブに過ごせるかなとこの絵を見て思った。

イラスト８では，感謝の気持ち・愛情・恋心・眠り・安心・誕生等がキーワードとして多くみられた。また，これまでの授業を思い返すような記述も多く見受けられた。

きゅうちゃんは「変幻自在的存在＝multi-being」（鮫島・石田 2023）である。「シンプルなフォルムのきゅうちゃんは，変幻自在的存在として立ち現れ，学生たちと豊かな協応行為＝身体の溶け合いを繰り広げる。学生はきゅうちゃんになり，きゅうちゃんは学生になる。（鮫島他 2023，p.68）」さらにきゅうちゃんは「これまでの経験との相互作用によって，様々な意味を生成する協応行為の対象となっている。そのため，きゅうちゃんは，時には家族，時には友だち，そして自分自身にもなりうるのである。また，生成される意味は多様なため，ポジティブにもネガティブにもなりうる。（鮫島他 2023，p.68）」

この授業では，学生は時に筆者（石田）にもなった。そのことがうかがえる感想を紹介する。これも上掲以外の学生のものである。

感想例M

毎回きゅうちゃんの写真を見る度に先生はどんな気持ちで考えて，なぜこの色合いにしたのだろうと考えていた。毎回のきゅうちゃんには先生の，その時の感情を表したものがあったのではないかと思ったりもした。今回（筆者注；８回目）のきゅうちゃんは私たちの講義での成長を感じて安心したかのような表情をしていることからきゅうちゃんは先生自身なのではないかと勝手に思った。

この学生は，きゅうちゃんを介して筆者の気持ちに協応しようとしたのかもしれない。８回目のイラストは筆者が「穏やかさ」や「あたたかさ」をイメージして制作したものである。心を見抜かれた気がして，感想を読んでハッとさせられた。きゅうちゃんは，きゅうちゃんを選んだ人（活用する人）の願いやねらいを受け止めて呈示され，協応を誘う存在なのかもしれない。

Ⅲ－３　８回のワークを終えての感想

以上，全８回のきゅうちゃんを活用した「出席確認」のワークを紹介してきた。ここでは，８回

目レポートに書かれていた感想から，このワークに関連のある感想を 11 例紹介する。

感想例N

私はこの絵を見たときに，きゅうちゃんは今までの教育学の授業を振り返っているのではないかと思った。ラウンドロビンやバズセッション，看図アプローチなどこれまでに様々なことを行ってきた教育学での取り組みを思い出し，これからに生かそうとしているのではないかと考えた。たくさんの人と交流し，たくさんの意見と出会い，たくさんの経験をしてきたことで，これから役立つ能力を身に着けることができた。

感想例O

これまでのきゅうちゃんを通して，創造力が上がったと思います。初めは全くできなったけど回数をこなしていくこと，みんなの意見・考えに触れることによって成長できたと思います。まだまだ足りない部分はあると思うが，教育学の講義に参加してとても良かったと思っています。

感想例P

今回で教育学が終了し，きゅうちゃんに会うこともなくなってしまいます。私は，きゅうちゃんのおかげで自分の思っていることを文章にし，相手に伝えることがどれだけ難しいか，簡単にできることではないということを強く学ばせていただきました。きゅうちゃんの画像から自分なりの考えを導きだし，相手にうまく伝えるための工夫をした時間は，なによりも価値のあるものでした。この経験を大切にし，次へのステップをふみたいと思います。

感想例Q

このきゅうちゃんが最後のきゅうちゃんになってしまうことがとても寂しいと思うことのできる授業でした。このきゅうちゃんを見てまず思ったことが幸せという言葉です。なぜなら背景がハートや星またピンクなどであるため，見ているだけでほんわかできるような絵であり，また，きゅうちゃんも幸せそうな顔をしているからです。きゅうちゃんは自分達自身でもあり，この教育学を通してコミュケーションということが楽しくなりました。自分は最初人と話すことが苦手であり周りに合わせることしかできていなかったですが，教育学を通してきゅうちゃんみたいに最後の授業では笑顔で人と話すことができるようになったと感じました。また自分が話しやすい環境というのは他の人も意見を言いやすかったりなどということにも繋がっていくと思いました。

感想例R

私がこのイラストを見て考えた言葉は，「またいつか」です。教育学の講義も最後になって，私ときゅうちゃんはもうお別れです。私の中のきゅうちゃんは眠ってしまうと感じて，でも他の人がこの講義を受けるときは同じきゅうちゃんとして登場すると思いました。このイラストは私にとってはお別れに見えて，まだ講義がある人たちにとってはまた別の見方になるんだろうなと思いました。

感想として，前にも書かせてもらったのですが，この講義が大好きです。他の講義は正直眠たくなったり，別のことを考えたりしてしまう時間があり，集中できていませんでした。受身の講義は聞くだけなことが多くて，自主的に取り組もうとするのが難しく，教育学に比べて理解が遅れてしまいます。けれど，この講義は意見を交換し合えるので，自分の意見を持つという時間が設けられて，考えることが出来ました。きちんと考えて取り組む

ことができたので，この講義の特徴や目的を明確にしてのめり込むことができました。

感想例 S

今までの講義やきゅうちゃんの課題の「見る力」を鍛える練習は，物事を一つの角度から見るのではなく，いろいろな角度から見て，発想力を鍛えるものだったと思っています。私はこの考え方が苦手で単純な発想しか浮かびませんでした。しかし，八回の講義と課題を通して少しではありますが，成長できたと思います。これからもっと力を伸ばすために頑張っていこうと思います。ありがとうございました。

感想例 T

最初はきゅうちゃんのストーリーなんて全く思いつきませんでした。でも今は何となくだが，見た瞬間に思いつきます。それを言葉にすることもできるようになりました。この能力はこの授業のおかげだと思います。これからも思ったことを言葉にすることを大切に社会でも生きていきたいと思いました。そして，自分自身を磨き続けたいと感じました！

感想例 U

教育学の授業が始まった最初の頃はきゅうちゃんの絵を見てもすぐには思いつかず，ポジティブな言葉を考えることに一苦労でした。でも今は教育学の授業を通して色々な人と交流したことで自分にはなかった意見や価値観など様々なことを学ぶことが出来たと思います。そのおかげで創造力 (想像力) がつき，ポジティブな言葉を自分の頭の中の候補から一番いいものを選ぶのが大変になりました。

元々，妄想するのは好きだったのですが，言葉にするということは得意ではなかったので，相手に伝えるというトレーニングができて語彙力や説明力も身につけることができたと思います。教育学を通してこんなにも多くの事を学べるとは思ってもいなかったので，とても勉強になりました。

感想例 V

きゅうちゃんのイラストに言葉を当てはめて，何があったのかを想像したり，調べ学習をしたりするのは，最初は大変で慣れなかったけれど楽しかったです。慣れてくると今日はどんなきゅうちゃんが見られるのかワクワクしたり，ありきたりな想像ではなく自分の個性や経験を活かした面白い回答ができるようになるのにやりがいを感じました。またきゅうちゃんに会えた時により良いレポートが書けるように想像力をこれからも磨いていきたいと思います。楽しい授業をありがとうございました。

感想例 W

教育学は今回で終わってしまいますが，きゅうちゃんにはずっとみんなを笑顔にしてくれる存在でいて欲しいと思いました。先生 (きゅうちゃんの親) には来年もきゅうちゃんを通して授業を行って欲しいです！

感想例 X

私は，教育学の最初のきゅうちゃんの写真を見て「おはよう」という言葉をチョイスしていました。そして，もし今似たような言葉をかけるなら私は，「またね」という言葉を選ぶと思います。「ばいばい」でも「さよなら」でもなく「またね」。また会えるかは分からないけれどきっとどこかで会える。きっと巡り巡って会うことができると思っています。だから，またどこかで会おうねきゅうちゃん！またね〜！！

感想例 X の学生は実際に次年度（2024 年度）開講の「教育心理学」を履修し，きゅうちゃんと

の再会を果たしている。この８回目レポートでは「きゅうちゃんについて感想を書いて」といった指示はしていない。そのため全員がこのような感想を書いてきてくれたわけではないが，多くの学生が「見ること」や「きゅうちゃん」にふれ，充実感を伝えてくれていた。

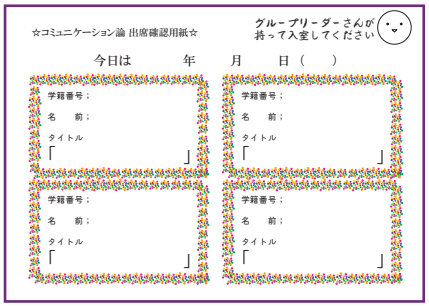
Ⅳ．おわりに

Ⅳ－１　教示とワークシートの改善

上に 2023 年度前期「教育学」での実践例を見てきた。この実践を受けて，教示およびワークシートに改良すべき点が見つかった。その具体的な内容をまとめておく。

はじめに「教示」である。次のような変更をした。「このイラストに，自分や，見た人・聞いた人がポジティブな気持ちになれるようなタイトルをつけてください。」を，2024 年度から「このイラストにタイトルをつけてください。」とシンプルにした。変更の理由は２つある。「ポジティブな」と思考を固定しないほうが多様な表現が出てくるのではないかという思いと，シンプルに聞いたらどんなタイトルが表現されるか試してみたかったこと，である。この結果については別の機会に報告させてもらいたい。

次にワークシートである。ワークシートはこれまでに２段階改良を加えている。それぞれのワークシートを掲載する（ワークシート２・ワークシート３）。


☆コミュニケーション論 出席確認用紙☆

グループリーダーさんが持って入室してください

今日は　　年　　月　　日（　）

学籍番号：
名　前：
タイトル
「　　」

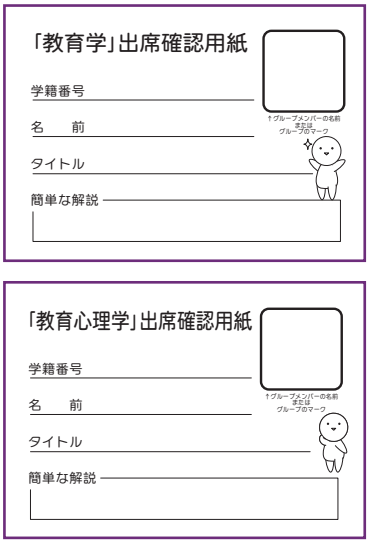
学籍番号：
名　前：
タイトル
「　　」

学籍番号：
名　前：
タイトル
「　　」

学籍番号：
名　前：
タイトル
「　　」

ワークシート２
（2023 年度後期「コミュニケーション論」で使用。A6 サイズ。）

ワークシート２は，１グループ３～４人編成にすることを想定して作成した。教室の座席配置の都合で５人以上になるとディスカッションがしにくくなるためである。また，ワークシート１は A4 版であったが，これは必要以上に大きかった。記入内容が学籍番号・名前・タイトルだけであることと，使用資源削減のためサイズダウンした。


「教育学」出席確認用紙

学籍番号
名　前
タイトル
簡単な解説

↑グループメンバーの名前
または
グループのマーク

「教育心理学」出席確認用紙

学籍番号
名　前
タイトル
簡単な解説

↑グループメンバーの名前
または
グループのマーク

ワークシート３
（2024 年度前期「教育学」「教育心理学」で使用。A7 サイズ。）

ワークシート３は現段階で最善と思われる形である。グループ単位で記入してもらうのをやめ，１人１枚に記入してもらう形にした。これにより記入時間に余裕ができるので，「簡単な解説」の記入欄も設けた。さらに，ワークシート３での工夫として，用紙右上の□枠がある。この□枠には，その日一緒のグループになったメンバー全員の名前を書き入れてもらうか，グループの共通マークを描き入れてもらう。あらかじめ座席指定されグループメンバーが振り分けられていても，出欠の状況によって座席移動が必要になることがある。そういうことがあっても，共通の情報がかき込んであれば，その日誰々が一緒のグループだったと後に確認することができるので安心である。

なお，ワークシート２とワークシート３にいるきゅうちゃんは，他にも複数のバージョンがある。授業数回おきにデザインチェンジをして，些細な工夫であるが変化を楽しめるようにした。

Ⅳ－２　今後に向けて－広がるきゅうちゃんの可能性

筆者が勤務する大学では 2020 年頃から学生数が増え始め，選択科目であっても 100 人を超えるようになった。2022 年度までは確実性を優先して点呼によって出欠の確認をしていたが，名前を呼び上げるだけでも体力を消耗する上，早く呼ばれる人・最後のほうに呼ばれる人がいて，そのタイムラグ・タイムロスが惜しく思えた。そこで白羽の矢が立ったのが「きゅうちゃん」だった。今年度（2024 年度）前期の段階で，手順等がかたまってきて，順調に実施できるようになってきたと実感している。後期の授業もⅣ－１であげた改良版（新教示とワークシート３）によって実施し，成果を確認していきたい。

本稿をまとめるにあたり，学生のレポートから新たな発見をすることができた。それは，このワークは単なる「出席確認」ではなく「積極的な授業への活用」が可能なのではないかということである。そう感じた文章を本稿内から抜き出し再掲する。

再掲文１（感想例Ｈより，イラスト３について）

> ４人のきゅうちゃんは，授業中のグループ活動にも照らし合わせることができ，私たちの意見はもっと無限にあり，話し合うことができると感じました。

再掲文２（学生７のタイトルとそのタイトルにした理由より，イラスト４について）

> 今回のきゅうちゃんは私たちひとりひとりと重なる部分があると思いました。（中略）このきゅうちゃんは私たち自身なのです。そして，きゅうちゃんとおなじように迷いながらも，時には後ろを振り返り立ち止まったとしても，誰かが見つけてくれると信じていれば選んだ道は間違ってなかったと胸を張って言える日が来るはずだと思うのです。勉強が難しくて悩む毎日だけど，わたしは周りのみんなや先生たちに助けを求めながらきゅうちゃんのように必死に頑張っていこうと思えました。

再掲文３（学生４のタイトルとそのタイトルにした理由より，イラスト２について）

> これから様々な困難に見舞われてしまったり，たくさんの苦労があるかもしれません。でも目標とするセラピストになるためのこの４年間は無限の可能性に溢れ，やりたいことを思う存分にやれるチャンスでもあると思います。

再掲文４（学生 11 のタイトルとそのタイトルにした理由より，イラスト６のお手紙より）

> 私は，医療従事者になるという将来の夢があります。今のあなたは，その目標を叶えられていますか？今の私は，国家試験に受かるという目標があって，毎日不安になりながらも，勉強をしています。

例えば再掲文１・２の下線部は，きゅうちゃんが自分自身やグループ活動と重なることを伝えてくれている。自分自身を主観的・客観的に見つめるきっかけになっている。また，再掲文２・３・４（二重下線部）のように，将来への不安と希望が垣間見える記述も多数見受けられた。筆者が全体的な印象として感じたことは，学生たちは将来あるいは大学生活への不安を抱えながらも，その思いを文章に書き出すことによって自身の成長の糧にしていたのではないかということである。

今回開発・制作したきゅうちゃんイラストは，客観的にきゅうちゃんの様子を読み解くだけでなく，積極的に自己を見つめるツールとして活用できるのではないだろうか。さらに，きゅうちゃんの「出席確認」ワークは，授業内容全体を導くオーガナイザー的・ファシリテーター的役割も果たしてくれているかもしれない。引き続き実践しながら，活用可能性を探っていきたい。

引用・参考文献

石田ゆき　2022 「きゅうちゃんの歴史（Ⅰ）－誕生編－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』16 号　pp.29-37

石田ゆき　2023 「きゅうちゃんの歴史（Ⅱ）－とっても大事な『ちょこっと使い』編－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』17 号　pp.31-44

鮫島輝美・石田ゆき　2023 「演習型授業における学生の主観的学びの記述についての言説分析－自己紹介に看図アプローチを活用した事例から－」『協同と教育』18 号　pp.53-73

鹿内信善編著　2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ協同学習の新しいかたち・看図作文レパートリー・』 ナカニシヤ出版

2024 年 6 月　1 日 受付
2024 年 6 月 27 日 受理